

2023年3月期 第1四半期 決算補足資料

- | | |
|--------------|-------|
| 1. 決算概観（連結） | P.2 |
| 2. 業績のポイント | P.3 |
| 3. 業績の状況 | P.4 |
| 4. 主要製品の状況 | P.5 |
| 5. 業績と予想（連結） | P.6 |
| 6. 開発品一覧 | P.7～8 |

2022年8月2日
キョーリン製薬ホールディングス株式会社



■ 将来の見通しに関する注意事項

本資料には、当社グループに関する業績見通しや目標・計画等、将来に関する事項が含まれています。これらの記述は、本資料作成時点において入手可能な情報や予測に基づく、当社グループの仮定や見通し等の判断によるものであり、既知または未知のリスク及び不確実性が内在しております。したがって、その後発生した種々の要因により、実際の業績や開発品の進捗・成否、その他の見通し等が記述内容と大きく異なる可能性があります。また医薬品（開発中のものを含む）に関する情報が含まれておりますが、その記述は宣伝広告や医学的アドバイスを目的としているものではありません。

2023年3月期 第1四半期 決算概観（連結）



(単位：百万円)	20年3月期 第1四半期	21年3月期 第1四半期	22年3月期 第1四半期	23年3月期 第1四半期	対前年 (%)	23年3月期 第2四半期 (予想)	対前年 (%)	23年3月期 (予想)	対前年 (%)
	売上高	25,749	24,689	24,695	24,619	-0.3	49,600	+1.0	112,000
営業利益	1,575	2,014	-756	489	-	700	-	5,500	+9.8
経常利益	1,827	2,265	-491	779	-	1,000	+249.8	6,000	+7.7
親会社株主に帰属する四半期 (当期) 純利益	1,280	1,609	-462	1,183	-	700	+475.2	4,500	+14.4

23年3月期 第1四半期 連結業績（実績）

【売上高】 主力製品であるベオーバ、デザレックス等の新薬群は伸長したものの、薬価改定（杏林製薬8%台）の影響等により、新医薬品等（国内）の売り上げは前年同期を下回りました。他方、後発医薬品の売り上げは増加し、全体の売上高は246億19百万円となりました。

【利益】 売上総利益は前年同期に対して横ばいで推移しましたが、前年に計上した導入品に関わる契約一時金の反動減に伴い販売費及び一般管理費（研究開発費を含む）が減少した結果、営業利益は4億89百万円と増益となりました。また親会社株主に帰属する四半期純利益は、西日本配送センターにおける火災により被災した委託保管製品に関わる保険差益を特別利益として8億79百万円計上し、11億83百万円となりました。

23年3月期 連結業績（予想）

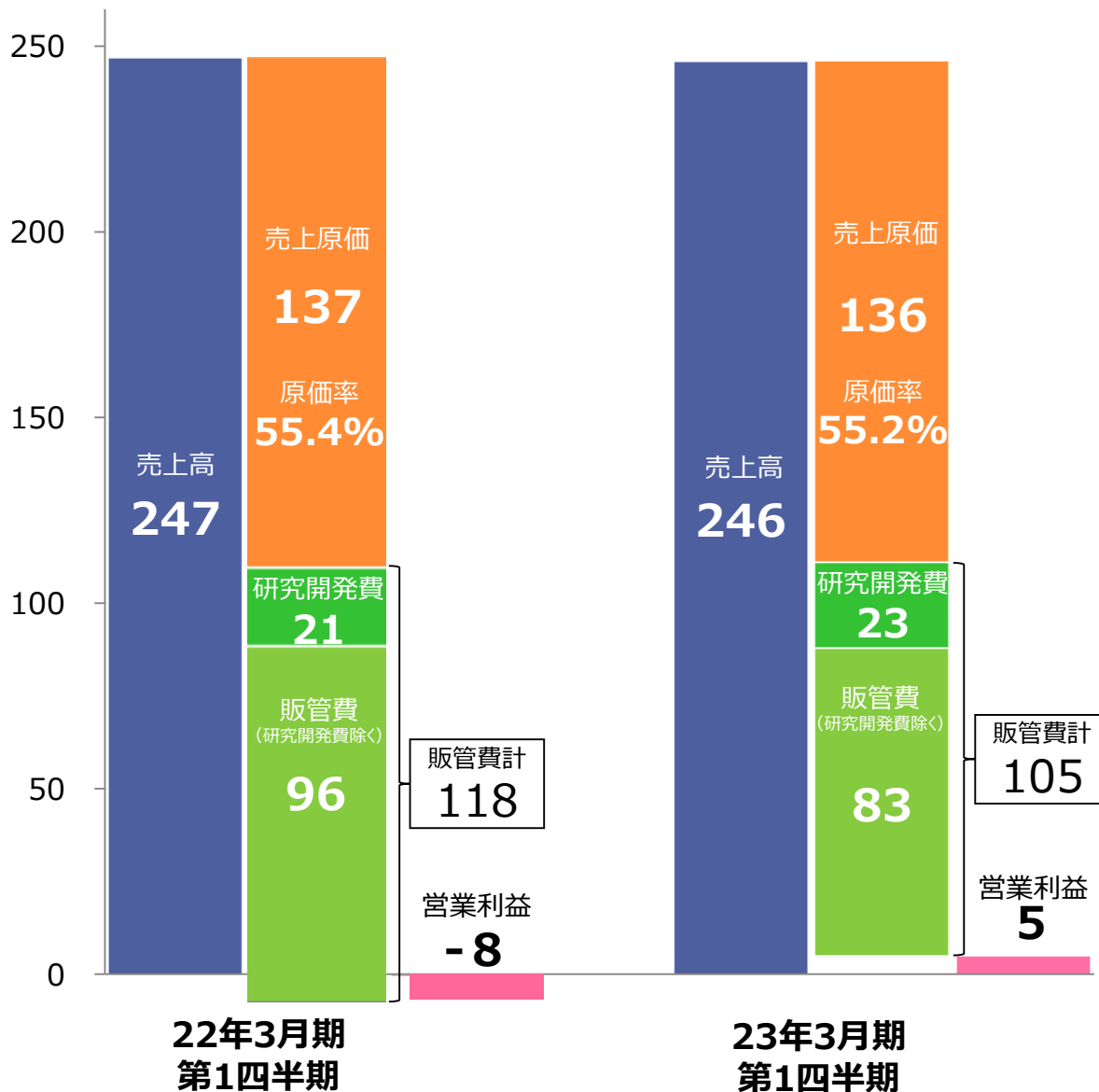
現時点におきまして、2022年5月11日に公表しました第2四半期連結累計期間及び通期の業績予想を変更しておりません。

（第2四半期業績予想に対する進捗度 売上高：49.6%、営業利益：70.0%）

また2022年5月11日に公表しました配当予想（年間52円/株）の変更はございません。

2023年3月期 第1四半期 業績のポイント

(単位：億円)



【ポイント】

売上高は減少 (-1億円)

- 新医薬品等（国内）の減少
-主力製品（ベオーバ、デザレックス）は伸長
- 後発医薬品は増加

売上原価率は0.2ポイント低下

【低下要因】

- 新薬群の売上増加、ベオーバの原価低減
- 棚卸資産の除却損等の減少

【上昇要因】

- 薬価改定の影響（杏林製薬8%台）
- 後発医薬品の売上増加

売上総利益は横ばい

販管費は13億円減少

- 研究開発費は2億円増加
-導入品に関わる契約一時金の計上
- 販管費（研究開発費除く）は減少
-特許等使用料の減少（前年計上した導入品に関わる契約一時金の反動減）

営業利益は増加 (+13億円)

2023年3月期 第1四半期 業績の状況



(対前年)

(単位：億円)	22年3月期 第1四半期	23年3月期 第1四半期	対前年 (額)
売上高	247	246	-1
新医薬品等(国内)	168	164	-4
新医薬品(海外)	2	1	-1
後発医薬品	77	81	+4
営業利益	-8	5	+13
経常利益	-5	8	+13
親会社株主に帰属する 四半期純利益	-5	12	+17

■売上高	246億円	(-1)	
●新医薬品等(国内)	164億円	(-4)	
	21.6(1Q)	22.6(1Q)	
・フルティフォーム	32	⇒ 29	(-3)
・デザレックス	13	⇒ 16	(+3)
・ベオーバ	21	⇒ 27	(+6)
・ラスピック	4	⇒ 4	(0)
・リフヌア	-	⇒ 1	(+1)
・ペンタサ	36	⇒ 34	(-2)
・キプレス	18	⇒ 15	(-3)
・ムコダイン	8	⇒ 8	(0)
・ナゾネックス	4	⇒ 4	(0)
・ウリトス	4	⇒ 2	(-2)
●新医薬品(海外)	1億円	(-1)	
	ガチフロキサシンに関わる収入減少		
●後発医薬品	81億円	(+4)	
	オーソライズド・ジェネリックであるモンテルカスト錠「KM」等の売上が増加		
■営業利益	5億円	(+13)	
●原価率：55.2% (前年同期：55.4%)	【低下要因】新薬群の売上増加、ベオーバの原価低減、棚卸資産の除却損等の減少 【上昇要因】薬価改定の影響、後発医薬品の売上増加		
●研究開発費：23億円 (前年同期：21億円)	導入品に関わる契約一時金の計上		
●販管費(研究開発費除く)：83億円 (前年同期：96億円)	特許等使用料の減少 (前年計上した導入品に関わる契約一時金の反動減) 人件費等の減少		
■親会社株主に帰属する当期純利益	12億円	(+17)	
●特別利益：9億円	西日本配送センターの火災により被災した委託保管製品に関わる保険差益		

2023年3月期 第1四半期 主要製品の状況



(単位：億円)		第1四半期						第2四半期		通期	
		22年3月期 (実績)	23年3月期 (実績)	対前年 (額)	対前年 (%)	中間 進捗率 (%)	通期 進捗率 (%)	22年3月期 (実績)	23年3月期 (予想)	22年3月期 (実績)	23年3月期 (予想)
新医薬品等 (国内)	フルティフォーム (喘息治療配合剤)	32	29	-3	-10.8	50.2	23.8	63	56	126	120
	デザレックス (アレルギー性疾患治療薬)	13	16	+3	+24.2	55.2	20.3	26	29	71	80
	ベオーバ (自社販売分) (過活動膀胱治療剤)	21	27	+6	+28.1	42.1	19.1	43	64	86	141
	ラスビック (ニューキノロン系抗菌剤)	4	4	0	+7.6	34.4	14.7	8	13	18	30
	リフヌア (選択的P2X3受容体拮抗薬/咳嗽治療薬)	-	1	+1	-	23.2	9.0	-	2	-	5
	バンタサ (潰瘍性大腸炎・クローン病治療剤)	36	34	-2	-6.7	52.5	26.7	71	63	140	125
	キプレス (気管支喘息・アレルギー性鼻炎治療剤)	18	15	-3	-17.8	52.0	21.7	36	28	84	68
	ムコダイン (気道粘液調整・粘膜正常化剤)	8	8	0	-5.6	55.0	26.4	16	14	35	29
	ナゾネックス (定量噴霧式アレルギー性鼻炎治療剤)	4	4	0	-3.3	70.1	20.0	7	5	24	18
	ウリトス (自社販売分) (過活動膀胱治療剤)	4	2	-2	-44.4	52.1	26.4	7	3	13	7
	ミルトン (哺乳びん・乳首消毒剤)	5	5	0	-0.2	47.7	24.4	10	10	21	20
ルビスタ (環境除菌・洗浄剤)	5	5	0	-4.0	44.0	23.2	10	10	21	20	
後発 医薬品	モンテルカスト錠「KM」 (気管支喘息・アレルギー性鼻炎治療剤)	26	28	+2	+8.6	59.5	25.8	51	46	122	107
	モメタゾン点鼻液「杏林」 (定量噴霧式アレルギー性鼻炎治療剤)	5	6	+1	+26.1	61.9	17.3	10	10	36	36
	イミダフェナシン錠「杏林」 (過活動膀胱治療剤)	2	2	0	-8.1	62.3	31.9	4	2	8	5

2023年3月期 第1四半期 業績と予想（連結）



(単位：百万円)	第1四半期						第2四半期		通期	
	22年3月期 (実績)	23年3月期 (実績)	対前年 (額)	対前年 (%)	中間 進捗率 (%)	通期 進捗率 (%)	22年3月期 (実績)	23年3月期 (予想)	22年3月期 (実績)	23年3月期 (予想)
売上高	24,695	24,619	-75	-0.3	49.6	22.0	49,102	49,600	105,534	112,000
新医薬品等（国内）	16,820	16,373	-447	-2.7	49.0	22.0	33,279	33,400	69,725	74,500
新医薬品（海外）	200	142	-57	-28.9	47.5	20.4	342	300	1,033	700
後発医薬品	7,674	8,103	+429	+5.6	51.3	22.1	15,481	15,800	34,775	36,700
営業利益	-756	489	+1,246	-	70.0	8.9	-68	700	5,007	5,500
経常利益	-491	779	+1,271	-	78.0	13.0	285	1,000	5,569	6,000
親会社株主に帰属する 四半期（当期）純利益	-462	1,183	+1,645	-	169.0	26.3	121	700	3,932	4,500

開発品一覧① (2022年8月2日現在)

POCプロジェクト (Ph1 ~ Ph2)

開発段階		開発コード	予定適応症	起 源	特 徴	備 考
国内	海外					
Ph1 (20年7月)	Ph1b/2a (aTyr:米国)	KRP-R120	間質性肺疾患 (肺サルコイドーシス)	aTyr (エイタイヤー)	融合タンパク製剤であり、Neuropilin-2 受容体 (NRP2)に結合することで過剰な免疫細胞の活性化を抑制する作用を有し、ファースト・イン・クラスの治療薬として肺サルコイドーシス等の炎症疾患への効果が期待される	
—	Ph1 (21年4月: 英国)	KRP-A218	重症化リスクを有する ライノウイルス感染症	自社	宿主分子を標的とし、体内におけるウイルス増殖を抑制する抗ウイルス薬	

開発品一覧② (2022年8月2日現在)

導入品の状況

開発段階		開発コード	予定適応症	起 源	特 徴	備 考
国内	海外					
Ph2 (19年12月) あすか製薬	—	AKP-009	前立腺肥大症	あすか製薬	新規アンドロゲン受容体モジュレーター作用を有し、前立腺縮小作用に加えて排尿機能改善作用を併せ持つ、新しい前立腺肥大症治療薬として期待される	日本国内における共同開発及び販売等に関する契約を締結 (20年9月) 高用量での追加Ph1試験 (終了)

導出品の状況

開発段階	製品名/ 開発コード	導出先	予定適応症	起 源	特 徴	備 考
Ph1	KRP-203	Priothera (プリオセラ)	—	自社	S1P受容体アゴニスト	本剤の開発・販売等に要する特許・データ等の知的財産及び原薬等を譲渡 (20年9月)